

令和7年度〔自己評価報告書〕

学校番号	学校名	校長名
46	川崎市立金程中学校	金子 清

学校教育目標	今年度の重点目標
<p>知・徳・体の調和のとれた、人間性豊かで、社会性に富んだ、たくましい生徒を育成する</p> <p>(1)自ら考え、創造し、正しい判断力と実行力のある人</p> <p>(2)礼儀正しく、心豊かで思いやりのある人</p> <p>(3)強い意志をもち、責任感と忍耐力のある人</p> <p>(4)心身ともに健康で明るい人</p> <p>(5)広い視野に立つ国際性豊かな人</p>	<p>学校経営目標達成のため、次の重点課題に取り組む</p> <p>I-心と身体の調和のとれた生徒を育成し、よりよく生きるための生きる力を育てる</p> <p>II-授業改善に取り組み、生徒一人ひとりに確かな学力を身につけさせる</p> <p>III-教育活動全体を通じて、主体的に判断し、行動し、学ぶ力を育成する</p> <p>IV-家庭・地域との連携を図り、開かれた学校づくりを推進する</p> <p>V-働き方改革の推進</p>

評価項目	具体的な取組	成果と課題	具体的な改善策
I	<p>自尊感情の涵養と他者理解の促進</p>	<p>「学びのスタイルは、いろいろあっていい」を合言葉に、「学びの多様性」を教職員とともに共通理解を図り、学習室の利用、オンライン授業、学習教材「すらら」の活用、取り出し授業や入り込み授業等、個々の実情に合った対応を行うことができた。また、SSW等の関係機関との連携や、教育系と心理学系の二つの大学とも連携し、生徒のサポートが効果的に行うことができた。課題としては、教員一人一人の「生徒理解」におけるスキル向上を目指し、今後も校内研修を行う。</p>	<p>4年間続けて「不登校対策」を最上位目標に掲げ、教職員一丸となって「多様な学び」に対する理解を深め、個々の生徒の進路選択も含め、「ありのままの自分を大切に」する支援を、学級担任だけではなく、SC、学年主任、生徒指導担当、養護教諭、支援教育COが連携しながら、同じ方向性で支援した。不登校生徒や学習室利用生徒等の情報共有を十分に図り、学習室を常時開設とし、担当者を増員することで、SCやCOと密な連携が図られた。</p>
	<p>生命(いのち)、心の教育の推進</p>	<p>各学年の発達段階に応じて「いのちの講演会」「性の多様性プログラム」を4年間継続的に取り組み、生徒のみならず、教職員の人権意識の醸成につながった。教育委員会の教育政策室や区役所地域支援課と連携し、「川崎市差別のない人権尊重のまちづくり条例」の取組等を日常の授業に取り入れることで、生徒が「いのちの大切さ」を理解し、また、人権尊重の意識の醸成につながった。</p>	<p>「多様性の尊重」を軸に「障がいへの理解」や「マイリティ」等をテーマにした講演会を学年の実態に合わせて実施することができた。今年度は「SNSに起因するいじめ」等の対応として、二つの関係機関のプログラムを学習に取り入れ、保護者への啓発等も実践した。国際学級も開設された実態を踏まえ、対象生徒の個別対応、学校としての支援体制も充実してきている。</p>
	<p>個に応じた指導、特別支援教育の推進</p>	<p>個に応じた指導の充実、特別な配慮を必要とする生徒への支援を図る。</p>	<p>「学習室」の担当教員の増員を図り、生徒個々の共通理解及び生徒のニーズに合った「取り出し授業」や機会を捉えた「入り込み支援」等を行うことで、成果があらわれている。特に、COや学習室担当教諭、教育ボランティア、サポーターの協力を得て、今年度は「取り出し授業」や「入り込み支援」について、多くの機会をつくることができた。また、教育委員会の巡回相談を利用し、通常学級での生徒理解と支援について、効果的に活用できている。</p>

II	「主体的・対話的で深い学び」の実践	「主体的・対話的で深い学び」の視点から授業改善を図る。	「学習日」を定期的に設けており、これは生徒の自己調整力の伸長を図るために、生徒が主体的に学習に取り組む機会を設定している。年々、参加率は向上しているが、教師の願いと生徒のニーズが合っているか、今後も検証を続ける必要がある。	教員研修の一つとして、夏季休業中に、川崎市学習状況調査の教科ごとの分析及び学年ごとの共有を図った。学習指導要領への理解、評価計画については、各教科で研修を重ね、教員どうしの理解が深まった。また、「主体的・対話的で深い学び」を実現するために、効果的かつ適切な評価となるよう、研究及び研修は継続して進めていく。
	責任ある評価の研究	学習評価の場面や方法を工夫し、評価計画を立て、客観的かつ生徒にとって分かりやすい評価を行えるようにする。	学校評価アンケートの結果によると、生徒、保護者ともに「先生は、学習状況に対しきちんと評価している」と回答している割合は、年々向上しているが、生徒や保護者の実感や認識が高まるよう、機会を捉えて指導のねらいと評価の観点、評価の意味等を丁寧に説明していく。定期テストのあり方等を年々研究を重ねているが、定期テストによる評価についても、評価の精度を高める工夫を行った。新たに、改訂間近の新学習指導要領の評価についての研修を行っている。	各教科内で年間指導計画を精査し、指導目標と評価計画の整合性を図る。特に、単元計画をしっかりと立て、見直しをもって授業を進める。
	生徒が主体的に参加できる活動の推進	生徒会活動や学校行事において、生徒の意見を尊重し、生徒が主体となって活動し、充実感を得られる場面をつくる。	「文化祭・合唱コンクール」の在り方を検討し、同日開催で実施したが、生徒の充足感を損ねることなく、生徒の負担感の軽減につながったと同時に、教職員の働き方改革の視点でも、大きな変革となった。また、生徒の手による「校則の見直し」を重ねてきたが、概ね『子どもたちとともに作る学校生活のルールや約束』の視点から、自らの学校生活を振り返る機会を設定し、一定の成果をあげることができた。	今後も、「運営の軽減」と「活動の充足」の両面から改革を進めたい。
III	健康教育、安全教育の推進	年間を通じて、主体的に学ぶ健康教育、安全教育の推進を図る。	健康教育では「熱中症予防」「食育」「薬物乱用防止教室」「いのちの大切さ」「多様性を学ぶ」等のプログラムを実施した。また、「総合的な学習の時間」において、各学年の共通テーマがSDGsであることから、さまざまな場面で学習と報告がなされている。	外部講師を招いての講演会等は、生徒が「自分事」として捉える貴重な機会となった。健康教育のプログラムについては、その年度の生徒の実態に即した内容を吟味しながら継続したい。さらに、異年齢集団による学習の機会を増やしていきたい。
	体験活動の充実 自己表現活動の充実	体験的な活動を通じて、「キャリア在り方・生き方教育」を推進する。また、体験活動の話し合いや発表の場を通じてプレゼンテーション能力の育成を図る。	学校評価アンケートでは、「自信をもって発言や行動ができる」という問いに対しての生徒の回答については、「できていない」と答えている生徒の割合も一定程度いることから、「表現力」、「プレゼン能力」の充実に、さらに力を入れて指導する必要がある。	プレゼンテーション能力を高めるように、特別活動や「総合的な学習の時間」だけではなく、各教科でも能力育成のための方法を検討する必要がある。

IV	家庭や地域との積極的な連携及び校内活動の情報発信	生徒・教職員が地域活動へ積極的に協力、参加する中で、地域の人的・物的資源を掘り起こし、教育活動への地域の協力を得る機会をもつ。学校だより及び各種通信や学校WEBページ等を通じて、情報発信を積極的に行う。	ボランティア体験の一つとして、こども文化センターや老人福祉センター、授産学園等でのボランティア体験やフラワーキャンペーン、異年齢交流イベントに参加し、地域とのふれあいの場として、貴重な体験活動となった。	WEBページの定期的な更新を心がけ、月の行事予定や年間計画の変更を家庭・地域へ十分に広報していく。また、学年だより、学校だよりは、計画的な発行を心がけ、学校の教育活動を発信していく。
	学校運営協議会の円滑な運営	学校運営協議会を円滑に運営し、改善提案等を的確に把握し、より良い学校運営に生かす。	小中学校の教員が、相互交流して「授業参観」や「意見交換」を行うことができ、有意義な時間を共有できている。学校運営協議会の委員の方々からは、現在の取り組み及び小中学校の学校運営に関して、大きな理解をいただいている。	今後も、定期的に学校運営協議会を開催し、学校や地域の情報を共有しながら、児童・生徒が9年間で積み上げていく学びや育ちについての意義を理解し、特色ある教育課程の編成など、自主的な学校運営を図る。
	小・中及び高等学校との連携教育の推進	授業参観、行事等での交流を通じて、小中及び高等学校との連携を図る。	今年度は、小学校6年生の体験入学、夏祭り、地域教育会議主催の幼児・小中高の児童生徒による「ふれあいフェス」等での交流を行うことができた。	本校(中学校)だけではなく、麻生高等学校の授業参観や各種行事、部活動体験を通じて、児童・生徒が交流し、小中高の連携を図っている。また、高等学校の運営協議会に、小学校と中学校の校長が委員となり、意見交換を進めている。この点も特筆すべき点である。今後も継続できるよう連携したい。
V	働き方改革の推進	校務分掌の精選や会議の見直しを図り、業務改善に取り組む。	ペーパーレス化については、かなり進んだ。それだけではなく、時程の変更を図ることで、放課後の生徒の活動時間を確保できたと同時に、教職員が余裕をもって仕事ができ、退勤時間がかなり早くなった。行事の在り方についても検討を重ね、「小さい努力で大きな成果」を生み出せる工夫を、行事ごとに教職員一丸となって模索している。かなりの成果はあらわれている。	本校は、部活動の終了時刻が、教職員の退勤時刻とほぼ変わらない工夫をしているところに大きな工夫がある。これは、効率と能率の視点から生み出されたものではなく、生徒活動に対するアンケート、教職員との個別面談等によって実現できている点大きい。次年度は、定期テストの改革を行い、さらに、業務内容の精選や会議の見直しを行い、「生徒の充足感」を損なうことなく、教職員の負担軽減を推進し、時間外勤務を減らすように努める。

学校関係者の評価	学校運営のまとめ
<p>金程中学校区学校運営協議会において、次のような意見や感想をいただいた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○自己肯定感を高める指導を継続してほしい。 ○GIGA端末の活用はよいことだが、SNS関係のトラブル対策を十分に行ってほしい。 ○ボランティア活動等については、年々充実している。次年度以降も行ってほしい。 ○落ち着いた学習に取り組む、学習や部活動でも様々な成果を上げている。 ○安心して学校生活を送れている生徒が多い。 	<p>最上位目標に掲げた「不登校対策」については、生徒のニーズに合わせて、学習室の利用者が増え、保護者からの相談への対応や、登校へのきっかけづくりの場と、多様な学びの実現の場の両面から、今後も、個々のニーズに合った入り込み支援や取り出し授業などを行うとともに、関係機関との連携を密にして進めていく。「信頼のある評価」については、授業改善や評価の在り方への研究を進めてきたが、今後も生徒・保護者に評価の在り方について研究成果を報告し、実践を重ねていく。「教員の働き方改革」の視点から、行事等の見直しや精選をさらにを行い、学校のスリム化を図っていく。</p>